



中国日本商会

今どきコラム-46

中国雑談

貴陽のスイス村

最高気温 38 度の北京から南へ 2200 キロ、3 時間の空の旅で貴州省の省都貴陽市です。北京 - 東京の飛行時間とたいして違いませんが、ただ違うのは、こちらの最高気温が 19 度しかないことです。もし長袖シャツを持って来るのを忘れたら、少し寒いと感じます。

エコ文明実験区貴陽国際フォーラム 2017 の取材のため、また来ました。毎年、この各種フォーラムを取材してきましたが、関連の国際フォーラムには日本関係の分科会はなく、貴州の日本語教師が数人いるだけで、筆者は日本企業の現地駐在員に出会ったことはありません。貴州は日本から遥か彼方なのだと思います。

毎回貴陽でフォーラム取材の際、奇妙に思うのは、必ず「中国スイス商会」の関係者に会おうことと、必ずスイス分科会が開催されることです。

「貴陽あるいは貴州全体がスイスとよく似ているからかもしれませんね。例えば、どちらも山が多く、川は縦横に流れていますが、海への出口には恵まれず、地理上の位置は純内陸地区ですからね」と、中国スイス商会事務局長の黄培敏氏が筆者に語ってくれました。

昨年、貴陽を訪問した際に、郊外にあるスイス村に行ってみました。車に乗って、一眠りして目が覚めると、山の上にはためく旗の中に赤地に白十字の印が目に入り、スイス国旗に違いのないと思いました。1 棟、1 棟の建物の間隔は広く、その間は広々とした芝生です。建物に入って見ると、油絵から家具に至るまで、完璧なヨーロッパスタイルでした（スイスに行ったことはありませんが、恐らくスイススタイルなのでしょう）。本当に一眠りしている間にスイスに来たように感じました。

「アハハ、それは貴陽で設計して建設したスイス村ですよ。私たちは参加していません」と、黄氏。

よく分かります。筆者は中国国内で、数えきれない和風温泉村に行ったことがあります。日本企業が参加しているかどうか聞いてみると、ほとんど全ての答えが、彼らが日本へ行って見学して、見学したイメージで温泉村を作っています。本来、日本に対してだけ



でなく、スイスに対する内心のあこがれが、このような形で現れているのかも知れません。スイス企業はこのようなスイス村に喜んでアドバイスし、資本的な介入がなくても、中国の物まね屋に改善、改良のアドバイスをしています。筆者が取材したことはありませんが、日本企業はどう対応しているのでしょうか。

表面的な模倣では、決心を固めて外国の経験を勉強して持ち込んだものにはかないません。

「私たちは貴陽に職業訓練学校を設立する準備をしています。2、3年制で、毎年1000人の高卒以上の学生を募集します」と黄氏。

スイスの観光、金融は世界的に非常に有名ですが、これまでは、スイスの製造業一腕時計などが全世界で名がよく知られていました。貴陽の観光には優位性がありますが、貴州の経済発展には恐らく製造業がなければならないでしょう。現在、貴州のビッグデータ産業はすでに勢いが着き始め、次のステップは製造業が後を追うことでしょう。中国スイス商会が見て気に入ったのはまさにこの点です。スイス商会は懸命に貴陽政府のサポートを得ようとしており、筆者の考えでは、教育、特に中国でまだ発達していない職業訓練教育の提案に、市政府がサポートしないわけではないでしょう。

中国スイス商会の呼びかけのもとに、中国に進出している1000社を超えるスイス企業がサポートすれば、このような職業教育は順調に推進されるでしょう。貴陽はスイスに学び、スイス村建設のような模倣段階を脱し、スイスの製造技術、匠の精神を導入し、徹底的に貴陽の落ちこぼれ現象を変革しようとしています。

（『日系企業リーダー必読』編集長 陳言）